

第3章 八千穂地区かわまちづくり計画

3.1 基本理念・基本方針

現在と未来、それぞれからの思いを込めて進める

佐久穂流のかわまちづくりの理念

現代世代

将来世代

誇りを持てる佐久穂の川と水、
そこで育む豊かな暮らしを
未来に遺す

利水・治水のバランス感覚を
大事にしながら、
新たに“遊水”空間をつくりだす

対象エリアの目標と基本方針

【大石川及び千曲川合流部付近のもつ特徴】

- 水源が北八ヶ岳 2つの水の出会いの場
- 雪解け由来の伏流水が豊富
大水が出てももとのに戻るのが早い
- 河川区域に接する水源
- 養魚に活かせる水温・水質
- 豊富な川虫
- 急な流れで千曲に合流
- 清水町の湧き水の水源
- 利水を歩いて知りめぐれるルートの存在

移住者の増加・地元にはない視点での
新たなまちづくりの進展

道の駅整備等を契機にした
新たなまちづくりの胎動
中部横断自動車道 八千穂高原IC開通
(仮称)道の駅「八千穂高原IC」整備
(R6年度開業を想定)
株式会社モンベルと包括連携協定を締結

全国的大規模災害の多発
風水害被害拡大傾向への懸念

【目標】 来る人 住む人 みんなが「いいね」を感じる
八千穂のかわまちづくり

方針① 雄大な山々の水に生まれ佐久穂の暮らしを
伝え・発信するフィールド

方針② 多様な生命のつながりを
みんなで学び・体感できるフィールド

方針③ 川・水を通じた人の輪と知恵で
佐久穂に新たな活力を生み広げるフィールド

北八ヶ岳・甲武信ヶ岳由来の川・水&暮らしに
出会い、ふれあい、みんながつながるフィールド目指して

16ページに示した2回のワークショップでは、現代世代と将来世代の2つの方向から、佐久穂町の暮らしと川の関係を考え、この両方向から導かれた考え方と対象地の特性を加味して、かわまちづくりの方針を見出しました。

<現代世代の考え方の特徴>

- (1)個人の 利害からの視点になりがち
- (2)個人にとっての危険性や利便性に傾きがち
- (3)完璧な安全安心を求め「現在の暮らし方を維持強固」しがち

現在世代が佐久穂の川と暮らしとの関係をみつめて見えてくる
共通課題

現在世代が未来に遺したいと思う
川と暮らしの関係
そのためになすべきこと

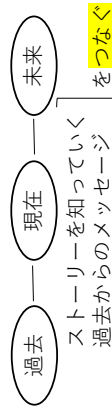
誇りを持てる佐久穂の川と水、

そこで育む豊かな暮らし

- 川が危険エリア扱いに（離れた存在）⇔危険な場所扱い
災害の発生
- 川・水を知り伝える人がいない
皆さん知らない（価値が置き去り）
- 災害発生と河川整備のあり方（の工夫）
（通り一辺倒でなく）
- いきものが絶じて減
たぐさんの魚種がいた川⇒種類減少
サケが遡上してきた千曲川
- 法制約への尻込み
○○できない、してはいけない色あい
が強い
防災面では◇しななければならぬ
- 川のまわりを預かる人の減少

□川とともにある暮らしの再認識・継承・創造

- ・水の怖さも理解しつつ 学び親しむ・楽しむ
- ・意思の伝承が必要



□生命をつなぐ環境としての川の継承

- ・美しい景観、風景、自然や生態系を保持
＝様々な生命をつなぐ
- ・水源のまち

□川を通して人とのつながりが生まれる暮らし

- ・地域のつながり 散歩での人つながり
- ・川の情報でのつながり 等

八千穂地区かわまちづくりの方針

<将来世代の考え方の特徴>

- (1)佐久穂に暮らし憩う人々全体の視点
- (2)将来の佐久穂の人々の暮らしや生業、あるいは自然への眼差しを
いかに制約しないでおけるかという視点
- (3)「望ましい川のあり方」に暮らし方をあわせていく視点

未来からのリクエスト

今目指している川と暮らしの方向性に対して

2062年の
佐久穂の川と
暮らしの姿

利水・治水のバランス感覚を大事にしなが
ら新たに生み出す“遊水”空間

- ・画一化しすぎず・形で残しすぎず
（シンブル・つくり直しが利く整備手法）
- ・ポジティブ要素にはマイナス
要因もついてまわる
- ・流域全体での視点をもち
て
- ・バランス感覚が大事
（守るところ・活かすところ）
- ・いいところも悪いところも教
えることの重要性
- ・「生きる」を学ぼう
- ・川の新しい使い方を考えてみ
よう（変化を受け入れ対応し
よう）＝「遊水」の考え方
- ・本気度をもって&垣根を越え
て（全国ネットで展開を）
- ・「川が大事だ」をみんなで意識

- 温暖化の進展
大都市での災害
環境変化
⇒大都市から地方へ
⇒スローフード・自
然回帰
⇒佐久穂にも人が戻
る
⇒川が広がる？
⇒海で魚がとれない
- エネルギー利用の
変化
⇒水と電力にあふれ
た町
- AI化の進展
⇒ドローン利用等
- 川が広がる
⇒川を使ったスポー
ツの盛んなまち

3.2 計画エリアの特色・計画上の着眼点

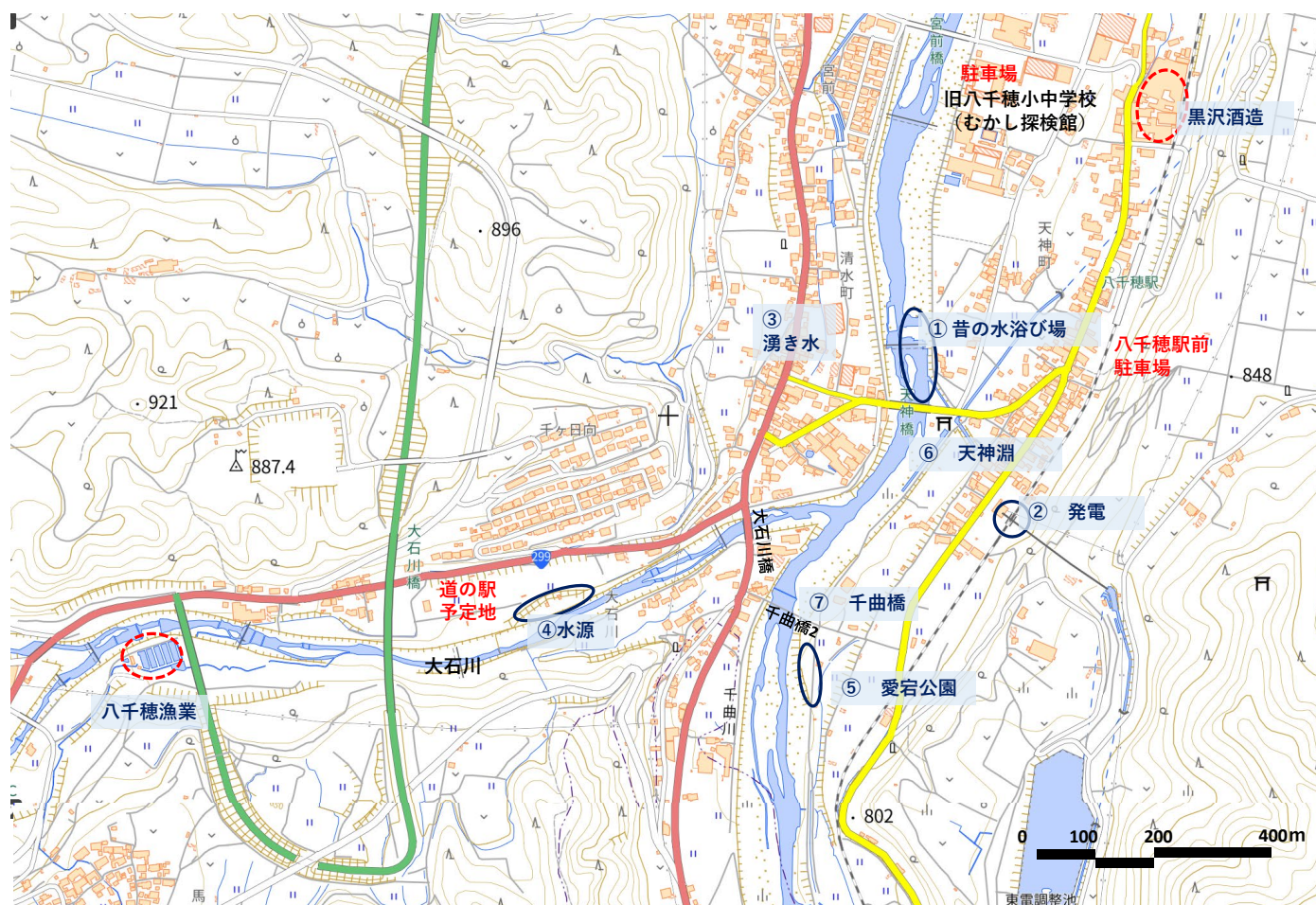
基本理念や基本方針を踏まえ、大石川下流部～千曲川合流部一帯の川や水とのかかわりを伝える暮らしの環境も含めた下図の範囲を計画エリアとして定め、その特色や取り組み具体化に向けた着眼点を整理しました。

<資源の特色>

- 昔から水の付き合いが深いエリア
 - ・古くから川で水と親しむ場も存在
- 様々な利水のスタイルが集積する区域。
 - ・発電 水源 湧き水等の多様な利水
 - ・酒 養魚等も清冽な水に育まれた食材等
- 合流点であり治水の難所
 - ・S34 台風7号・15号の被害
 - ・S57 天神橋付近一部堤防決壊
 - ・R1 19号台風による被害 等
- 歩いて廻る仕組みのベースあり
 - ・道の駅整備により、川沿い・一帯の歩ける道筋と既存資源や駐車ポイントとのつながりの可能性が広がる

<理念・方針に沿った取り組みの着眼点>

- 人が近づきたくなる川への環境改善
 - ・川を知り・学ぶ (よいも悪いも)
 - ・生きるを学ぶ ・画一化しすぎない配慮
- 川の魅力を伝える効果的な発信の強化
 - ・道の駅の内外に向けた発信力、集客力を活かす
- 川の新しい使い方「遊水」の視点
 - ・川や水とふれあい、遊び、楽しめる
 - 「遊水」空間づくりの視点の導入
 - ・治水・利水とのバランスにも留意
- 様々な繋がり強化
 - ・モノとモノだけでなく、人と人も
 - ・川の関係者相互にある垣根を超えた連携に基づいた取り組みの実施が必要。



計画対象エリア内の現況・水や川に関する資源の位置

3.3 ゾーニング

対象エリア一帯を川と川に育まれた暮らし・恵みを楽しむことができるエリアへと発展させていくために、3つの特色あるフィールドそれぞれの役割を定め、有機的につなぐ空間づくりを目指します。

大石川フィールド

道の駅～千曲川・大石川
合流点ゾーン

拠点施設:道の駅

発信・導入体験の提供

道の駅に新たに生まれる情報発信やアウトドア分野をはじめとする地域振興機能を活かし、川に育まれた佐久穂の魅力を伝えたり、川を活かしたアクティビティの導入体験の機会を提供するフィールド。

千曲川フィールド

愛宕公園・千曲橋ゾーン
拠点:愛宕公園

体験・ふれあい・交流の場

千曲川の川辺でのいこいの場として整備された愛宕公園を拠点にし、広場や河畔の広がりを活かして、より活動的で多様な遊び・学びを実践できるフィールド。

水と暮らしのフィールド

八千穂駅前一帯～千曲川
右岸堤防ゾーン

拠点:八千穂駅

むかしたんけん館

賑わい・活力創造

小海線沿線の古い町並み、酒蔵、食や地場産品を提供できる店舗等や、むかしたんけん館等の施設を活かし、川、水の魅力や道の駅を通じて訪れた人が満足できるサービスや賑わいを創出するフィールド。

全域ネットワーク

つながり創出（散策・サイクリング等）

ゾーン間をつなぐ動線の充実や連続性を確保し、道の駅等の交通結節点を発着点としたサイクリングや散策の環境を充実。



利用展開と空間づくりのイメージ

対象区域の環境を活かしたかわまちづくりを通じて取り組む内容を図面上に整理しました。3つの方針を踏まえ、次のような利用のできる空間づくりを目指します。

○「遊水」（川・水とのふれあい）をステップアップしながら展開できるフィールドに

- ・方針①(伝え・発信)&方針②(みんなで学び・体験)
- ・川・水とのかかわりの目的に応じて3つのフィールドを活用(導入・入門 ⇒ 体験・体感 ⇒ 学習・会得)

○水と川を感じながら、八千穂を巡り味わえる空間に

- ・方針①(伝え・発信)&方針③(活力創出)
- ・車を停めることが可能な複数の拠点を活かし、八千穂にたたずむ時間を提供。
- ・道の駅から2km以内のエリアで一帯を周遊し滞留できるしくみ・環境を構築

A 道の駅施設+河畔

= ガイダンス・導入体験の場

運営体制のある道の駅施設を有効に活かし、釣り(管理釣り場)、滝つぼ体験(シャワーウォーク等)、放流等漁場整備体験、蛍の観察等川や水とのふれあいの導入部をイベント等の機会を提供。合わせて南佐久の入口として、その魅力や産物を店舗や情報案内にて発信。

大石川左岸
護岸・管理用通路整備
上畑区下堰用水整備

道の駅から大石川への
階段・自然石護岸整備

大石川フィールド

八千穂高原IC

八千穂農業
養魚場

大石川 滝つぼ

湧水活用
蛍の生息環境
や木道の整備

大石川右岸
階段 帯工

愛宕公園
護岸整備
(階段等)

道の駅から対岸へ渡る
仕組み(渡河機能
のある帯工設置等)

旧八千穂小学校（将来的な解体を想定）。その後のオープンスペースとセットで千曲川へも近づく場の検討

旧八千穂中学校
むかしたんけん館の利活用

C むかしたんけん館
＝地域の歴史も含めた理解
地域のまちなみと、川・水とくらしの関係をより掘り下げて発信。学習の場としても利用。

黒澤酒造

水と暮らしのフィールド

奥村土牛美術館見学・八千穂駅前街並みの散策・店舗立ち寄りのしくみ構築

JR
八千穂駅

駅前駐車場

① 昔の水浴び場

⑥ 天神淵

合流部・千曲川左岸の河床整理

② 発電

B 愛宕公園＋河畔
＝河畔と広場を活かした体験
広場を有する河畔環境を活かし、より本格的な体験の場としての活用

⑤ 愛宕公園

愛宕公園再生
機能向上及び体験の場としての利用

大石川・千曲川河川整備範囲

かわまちづくり計画
取り組み候補

--- 自転車
--- 徒歩
--- ランニング

水、川にまつわる資源

地域防災計画ヘリポート

千曲川
フィールド

0 50 100 250m

3.4 ゾーン別イメージ

大石川フィールド 道の駅～大石川・千曲川合流点ゾーン

発信・導入体験の提供

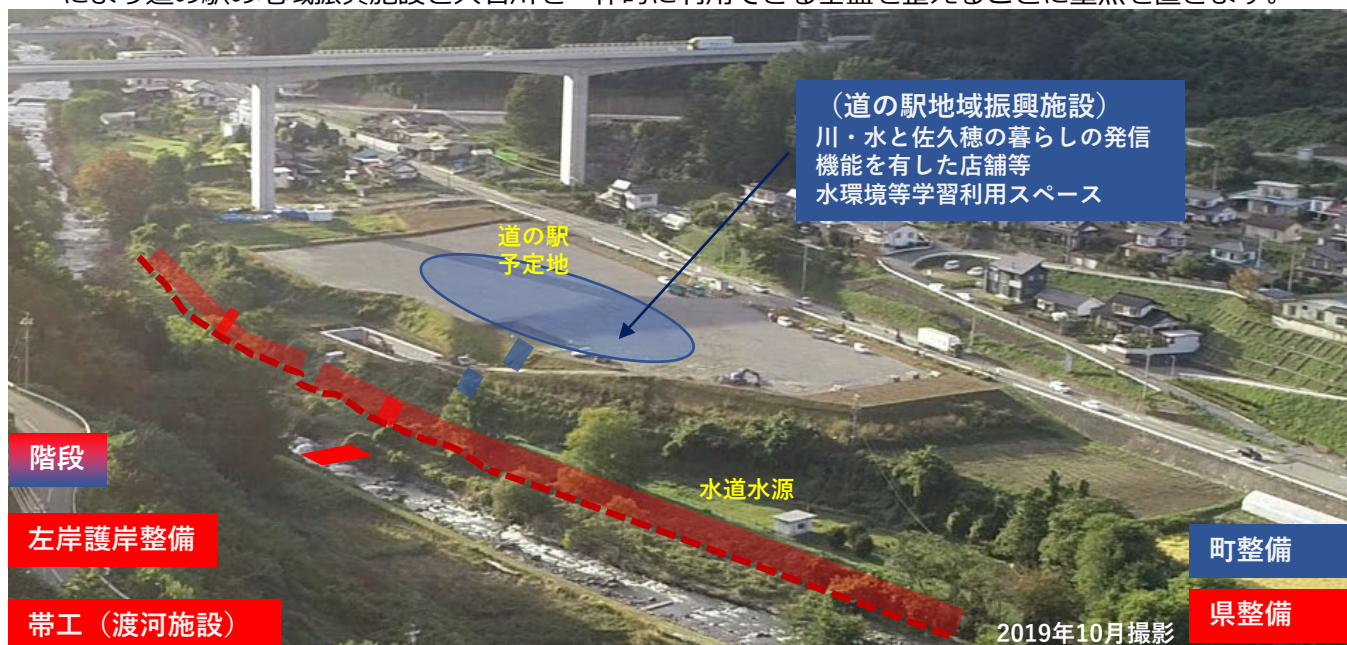
道の駅に新たに生まれる情報発信やアウトドア分野をはじめとする地域振興機能を活かし、川に育まれた佐久穂の魅力を伝えたり、川を活かしたアクティビティの導入体験の機会を提供する機能を高める施設整備を進めます。その空間を活かし、道の駅を拠点として一帯の資源を楽しむソフト（自転車・散策などによる周遊他）の構築に取り組みます。あわせて大石川と千曲川の合流部の安全性を高めるための護岸整備等の対策を進めます。



全体概観

(1) 道の駅一帯の整備

道の駅から大石川河畔へのアクセスを良好にするための階段のほか、河道内の帯工等の改修等により道の駅の地域振興施設と大石川を一体的に利用できる基盤を整えることに重点を置きます。



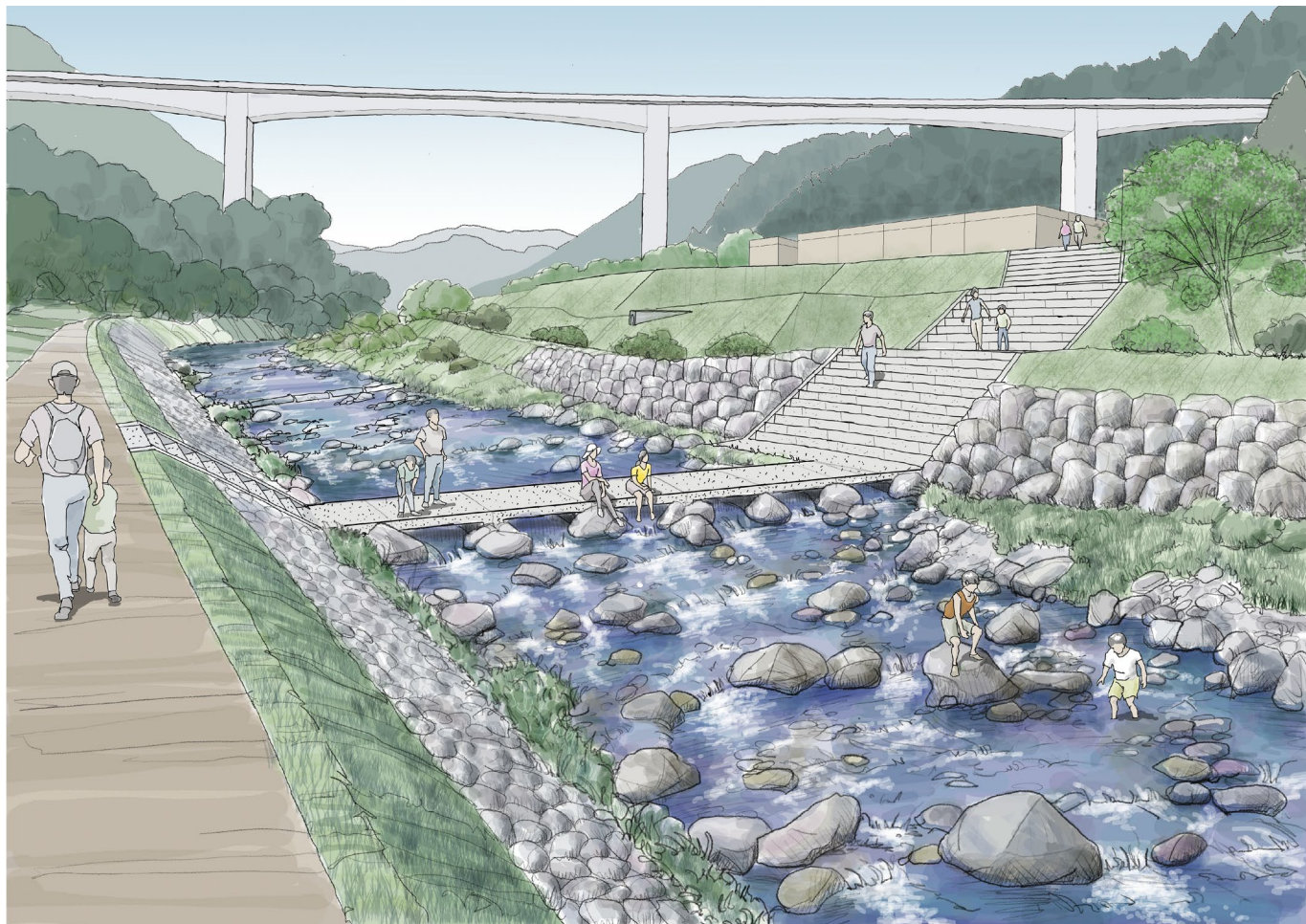
<参考事例>



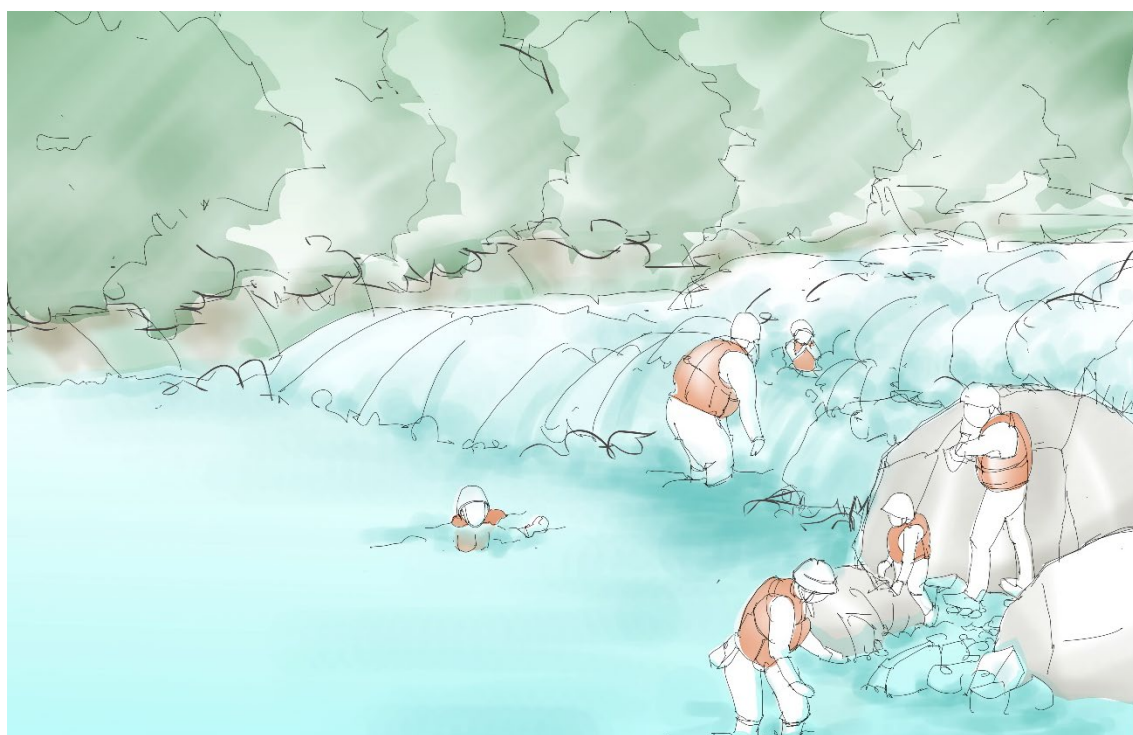
駒ヶ根太田切川の帯工
(渡河機能付施設)



道の駅 うへの 護岸・階段整備



道の駅周辺の大石川一帯の整備と川遊び等の利用イメージ



滝つぼ体験のイメージ

(2) 千ヶ日向水道水源～大石川橋区間の整備

道の駅予定地～大石川橋までの左岸の区間は、一部急峻な地形や巨岩等があり管理車両通行が可能な通路はなく蛇籠等による簡易な護岸が続き、歩行のみ可能な区間となっています。右岸側は道の駅予定地の対岸部分までは管理用の車両の通行は可能な条件となっているが入川のための階段等はなく、梯子等に対応しており、改善が必要な状況です。

また、上畑区地籍等への主要な用水である、下堰用水の取入口から水量調整口までの堤外水路も改良が必要な状況です。



今後想定される経過年数60年の水道水源の一部施設の更新の他、関連する下記の検討課題を踏まえ、長野県及び関係機関との調整を行いながら、護岸及び河道内の整備を検討していくこととします。

■ 左岸の護岸整備による安全性の向上・利水環境の改善

- ①道の駅からの東方向への安全な移動動線確保（サイクリング・散策）
- ②R6以降予定の水道水源の施設更新と管理機能の強化
(護岸に沿った車両動線の検討)

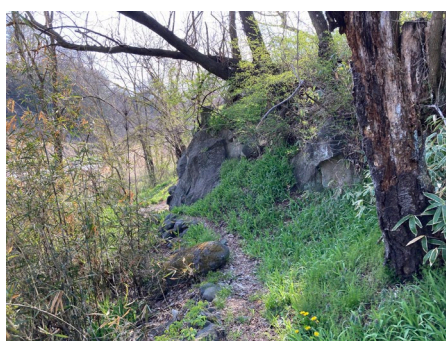
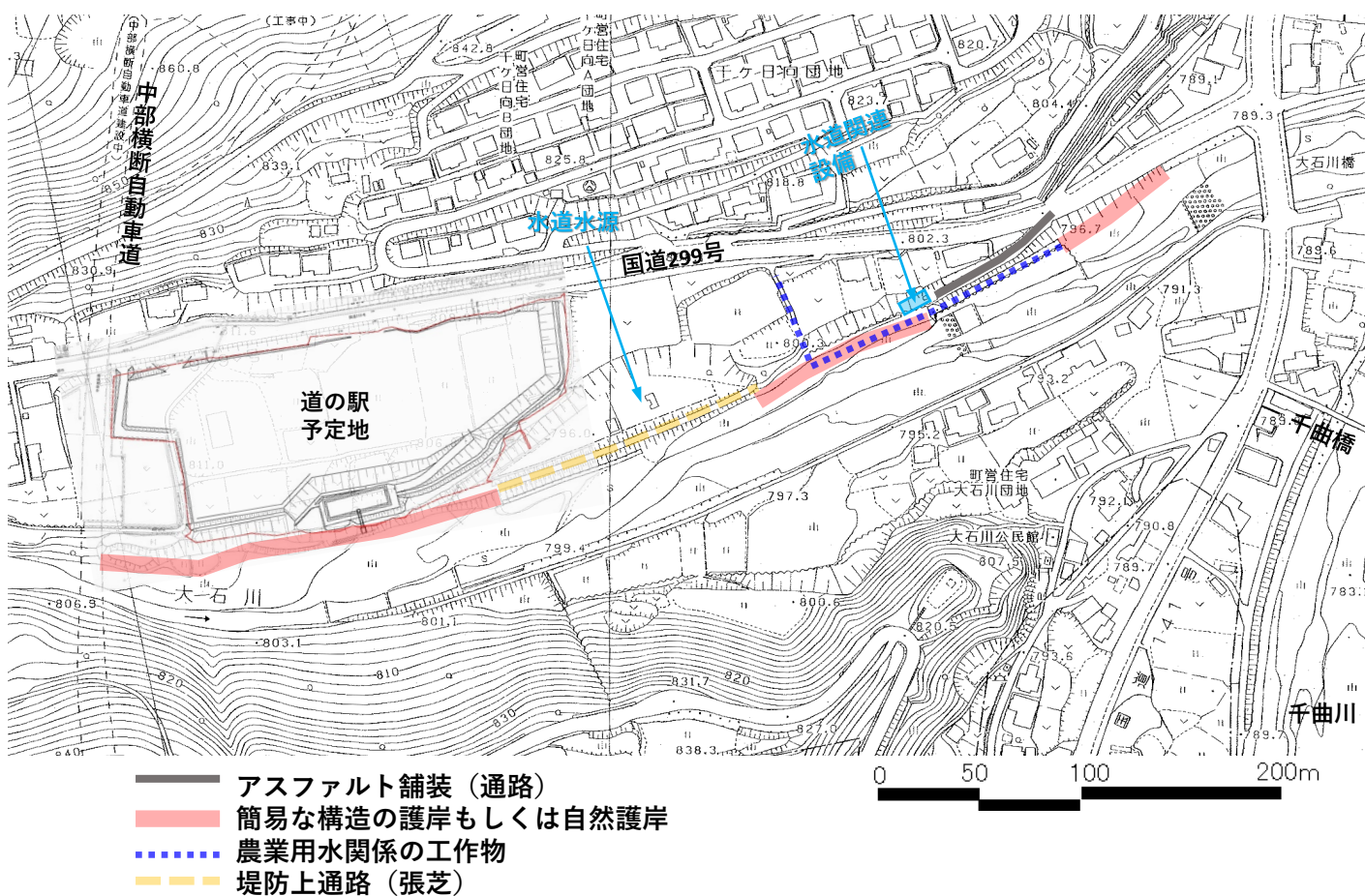
- ③下堰用水の取入口から水量調整口までの堤外水路の改良

■ 右岸側の護岸等の整備による安全性の向上と環境改善

- ④右岸の護岸整備
例：右岸側の護岸根固めの補強及び災害で消失もしくは損傷した帯工の再設置
(アユ種苗ポイント確保の効果)
- ⑤右岸側への階段整備 (放流作業の安全性向上・入川機能の強化)

※ () 書きは河川整備により期待される相乗効果

参考① 大石川左岸の護岸等の状況



水源施設周辺の左岸上の通路の状況

図 道の駅予定地～大石川橋区間の左岸の護岸の状況

(3) 大石川・千曲川合流点付近

令和元年東日本台風（台風第19号）での被害を踏まえた合流箇所のさらなる安全確保のため、河床整理、護岸の再整備、漁場管理のための入川箇所の確保等に向け、必要な措置の具体化を進めます。



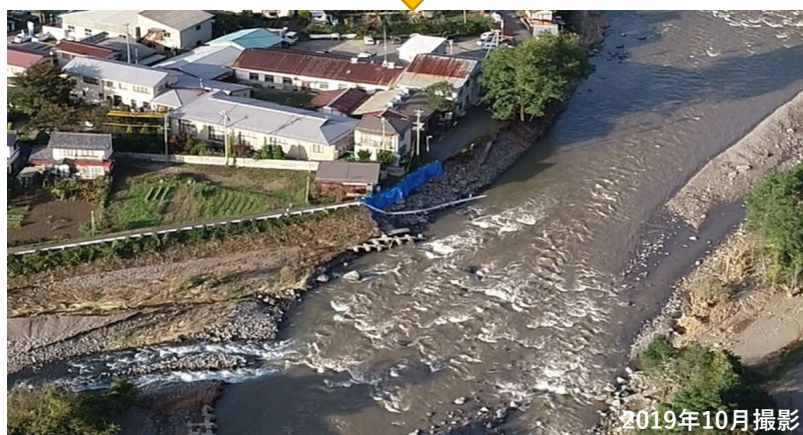
現存の入川環境の一例

参考② 大石川のカジカの子産卵床造成



千曲川との合流手前の大石川河道内には、災害時などの河川整備や復旧の機会を活かし、南佐久漁協により、令和3年度にカジカの子産卵床が造成されている。

参考③ 令和元年19号台風直後の合流点付近の状況



千曲川フィールド 愛宕公園・千曲橋ゾーン

体験・ふれあい・交流

千曲川の川辺でのいこいの場として整備された愛宕公園を拠点にし、広場や河畔の広がりを活かして、より活動的で多様な遊び・学びを実践できる空間づくりを目指します。

既設の公園を活かしながら、不足する機能の補完を行い、大石川とは異なる水環境を活かした学習や体験交流活動を展開します。

愛宕公園周辺では、対象地一帯で唯一の高水敷の広場の広がりを活かし、またとまった人数の水辺体験利用やイベント等を受け入れる場としての機能を高める再整備を進めます。

駐車場整備
簡易トイレ整備
植栽の間伐
健康遊具設置等



(利用例)

- ・道の駅と連携した水辺体験イベントのサブ会場利用
- ・道の駅からの散策とセットでドッグラン利用
- ・ヤギによる草地管理（舌刈り）等



愛宕公園付近の再整備イメージ

水と暮らしのフィールド 八千穂駅前～千曲川右岸堤防ゾーン

賑わい・活力創造

小海線沿線の古い町並み、酒蔵、食や地場産品を提供できる店舗等や、むかしたんけん館等の施設を活かし、川、水の魅力や道の駅を通じて訪れた人が満足できるサービスの構築・提供を通じ、新たなまちの活力と賑わい創出につなげることを目指します。

むかしたんけん館の機能補完
(駐車スペース・展示等)

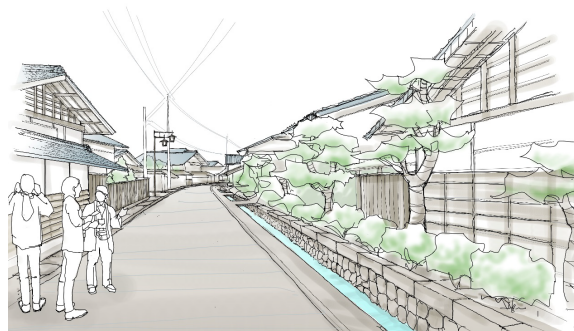
散策者向け駐車スペース
案内の充実(駅前)



町整備

2019年10月撮影

まちなみ修景に留意した案内・発信



八千穂駅周辺での散策のイメージ

八千穂駅周辺には奥村土牛記念美術館、黒澤酒造、酒の資料館の他、古い町並み、レストラン、古民家を再利用した店舗などがあり、川沿いの道からの散策や自転車で移動すると、八千穂地区の暮らしの一端に触れることのできる空間が広がります。

本計画を通じて、まちなみづくりにも留意しながら情報案内や道の駅等とも連携したサービス構築に取り組みます。



参考④ 新たなまちづくり・まちおこしの動きとの連携

2015～2019年頃にかけては、八千穂駅前の街並みや古民家等の空間を活かしたまちおこしの活動が展開されていました(信州大学、町の商工会青年部などが関与)。現在は感染症の影響で休止中であるが、今後の蔓延の状況や対策の進展を考慮し、こうしたまちおこしの動きの再起動・連携についても検討を進める必要があります。



つながり創出（散策・サイクリング等）

自転車利用の安全確保
(国県道改良)

景観に調和した案内
表示・情報発信

上流の雨量などの情
報収集・発信設備



47

3.5 実現に向けた取り組み案

3つの方針に沿って目指すフィールドを実現していくため、それぞれ方針と区域の組み合わせに適した取り組みを抽出し、ハードとソフトとに分け、一覧にまとめました。

(記載内容の詳細は案であり、今後、本書51ページに示す推進組織で具体化されるものです)

方針①

発信
伝承

方針②

学び
体感

方針③

活力
創造

ハードに関する取り組み

大石川フィールド

道の駅～大石川・千曲川
合流点ゾーン

水と関わる暮らしの発信
(道の駅地域振興施設)

階段・左岸護岸整備
河畔散策路
渡河機能のある帯工

共有利用スペース
(道の駅地域振興施設)
ガイド等案内役の拠点

川の安全対策 (共通)

上流の降雨などの気象情報収集・発信施設の補完
合流点左岸改修 大石川左岸護岸等整備検討

千曲川フィールド

愛宕公園・千曲橋ゾーン

駐車スペース補完
体験用スペース
川に近づく階段
簡易トイレの確保

水と暮らしのフィールド

八千穂駅前一帯～千曲川
右岸堤防ゾーン

たんけん館での発信
補完 (展示・駐車ス
ペース等)

散策者向け
駐車スペース
みどころ案内板

自転車利用の安全確保
(道路改良等含め)
コースサイン

全域 (つなぐ環境づくり)

ソフトに関する取り組み

大石川フィールド

道の駅～大石川・千曲川
合流点ゾーン

水、水を活かした
地場製品の販売

川遊び入門体験
道の駅で受付
滝つぼ体験

アウトドアグッズ
販売+防災学習等
BBQ利用
管理釣り場

川の安全対策 (共通)

危険時の周知・発信

千曲川フィールド

愛宕公園・千曲橋ゾーン

学校・地域等での体験利用
(仮) 遊水プログラム・魚類等の学習

川遊び総合体験・広場の多面的利用
(より本格型の体験の機会提供)

水と暮らしのフィールド

八千穂駅前一帯～千曲川
右岸堤防ゾーン

ガイド付き散策

たんけん館を活用
した水に関する学
習機会

道の駅との連携でサー
ビス充実 (水・魚・食等
を絡めた散策等のツアー
等)

全域 (つなぐ環境づくり)

サイクリングコース設定
道の駅発の散策案内
自転車貸出し (E-bike
等) サービス

ポイント制で周遊促進
道の駅発の立ち寄りポ
イント等の導入 (フレン
ドショップのしくみ活用)

重点取り組み

来る人・住む人 みんなが「いいね」を感じる八千穂地区のかわまちづくりを実現していくにあたり、3つのフィールドや方針、全域をつなぐ環境づくり等の連携を通じて、当面の間、重点的かつ分野横断的に取り組む内容を整理しました。

方針①
発信
伝承

方針②
学び
体感

方針③
活力
創造

天然の川を楽しめる道の駅

滝つば体験・管理釣り場、シャワーウォーク等で川や魚を楽しめるサービスのある道の駅

地域住民が水を知り、川で遊び、水への理解を深める場のある道の駅

佐久穂の水と食の発信・提供

大石川フィールド

道の駅～大石川・千曲川合流点ゾーン

千曲川フィールド

愛宕公園・千曲橋ゾーン

水と暮らしのフィールド

八千穂駅前～千曲川右岸堤防ゾーン

全域
つなぐ環境づくり

川の安全対策

アウトドアで健康に！

一帯の美化を進め、住む人も、来る人も心地よくサイクリングやウォーキング、ランニングができ、健康過ごせる空間に！

八千穂の水・食・くらしの魅力発見&満喫

ここに暮らす人たちが水をテーマにしたまちを楽しむ物語を組み立て、これを子どもたちにも伝えつつ、道の駅整備を契機に訪れる人向けに楽しみを増やすサービスにも発展

来る人・住む人 みんなが「いいね」を感じる
八千穂地区のかわまちづくりを3つのテーマで推進

なお、この取り組みの内容の具体化にあたっては、本書2ページに示したフューチャーデザインの考え方を踏まえ、将来佐久穂町に暮らす人の目線できりまとめたメッセージ（35ページ）の内容を加味しながら進めていくこととします。

第4章 今後の進め方

4.1 役割分担

本書で目指すかわまちづくりには、河川管理者、佐久穂町のほか、日ごろから河川を利用する地域住民、新たに生まれる道の駅の運営組織等の様々な主体の関与が必要となります。3つのゾーンとこれらをつなぐネットワーク整備等の内容を、河川整備、利用施設、維持管理の3種類に区分しながら、取り組む主体を明確にするため、下表にこれらの関係を整理しました。

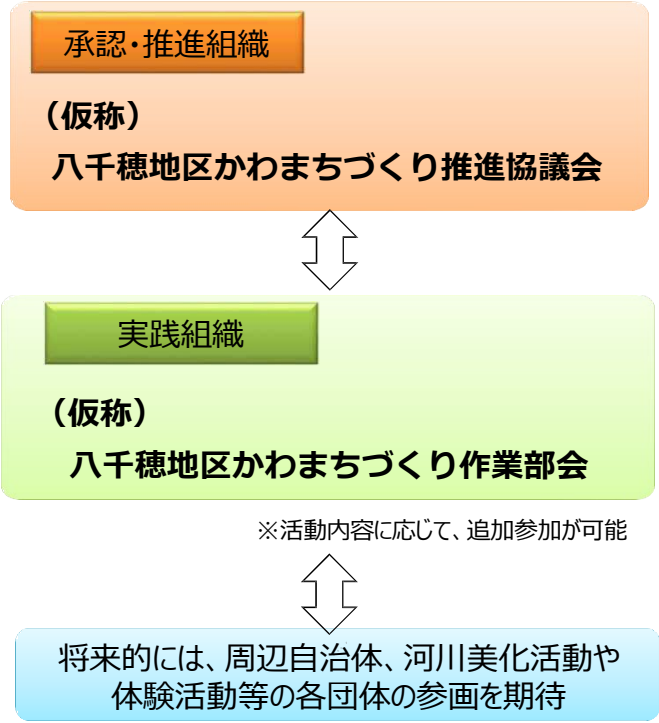
ゾーン	取り組み区分	具体的内容	取り組み主体		
			河川管理者	佐久穂町	地域住民等
大石川フィールド 道の駅～大石川・千曲川合流点ゾーン	河川整備	道の駅付近一帯の護岸整備・階段工・管理用通路帯工(渡河施設) 左岸護岸整備・管理用道路整備検討 合流部左岸改修整備検討	○		
	利用施設	階段工 河畔散策路 道の駅施設（地域振興施設他）		○	
	維持管理	河川施設管理 利用施設管理 清掃等	○	○	○
千曲川フィールド 愛宕公園・千曲橋ゾーン	河川整備	階段（水際への整備）	○		
	利用施設	進入路 駐車場 簡易トイレ		○	
	維持管理	公園施設管理(施設・植栽他)、清掃等		○	○
水と暮らしのフィールド 八千穂駅前～千曲川右岸堤防ゾーン	河川整備	階段	○		
	利用施設	駅周辺案内サイン むかしたんけん館機能補完（展示等補完整備・駐車スペース確保）		○	
	維持管理	河川施設管理 利用施設管理	○	○	○
つながり創出（散策・サイクリング等）	交通安全対策	サイクリング・散策利用のための安全対策施設	※	○	
	利用施設	案内板・誘導サイン等		○	
	維持管理	利用施設管理 清掃等	※	○	○

※県管理道の対策は長野県と分担

4.2 推進体制

「かわまちづくり計画書」の策定にあたっては、自治会、商工会、佐久穂町、大石川・千曲川の管理者である長野県等から構成した「佐久穂町かわまちづくり協議会」を設置し、計画内容を検討してきました。また、計画の具体化に先立ち、信州大学との連携による「フューチャーデザイン研究会」にてワークショップを開催し、佐久穂町の川と人の暮らしのあり方の視点からあるべき姿の方向付けをいただきました。

今後、「佐久穂町かわまちづくり協議会」は計画を推進するとともに、計画書の評価や必要に応じて計画の見直し等を行うことを目的とする「(仮称) 八千穂地区かわまちづくり推進協議会」に改組します。また、協議会委員、ワークショップ参加者等を交えた「(仮称) 八千穂地区かわまちづくり作業部会」を新たに設けて、施設計画、利活用・維持管理の検討を進めていく計画です。



(仮称) 八千穂地区かわまちづくり推進協議会

所	属
地域関係者	関係地元区区长
河川利用団体関係者	南佐久漁業協同組合 八千穂漁業
環境・まちづくり関係者	信州大学 佐久穂水力発電株式会社
商工関係者	佐久穂町商工会 佐久穂町観光協会 八千穂高原スキー場・キャンプ場指定管理者
行政機関等	佐久水道企業団 佐久建設事務所
アドバイザー	株式会社モンベル
事務局	佐久穂町

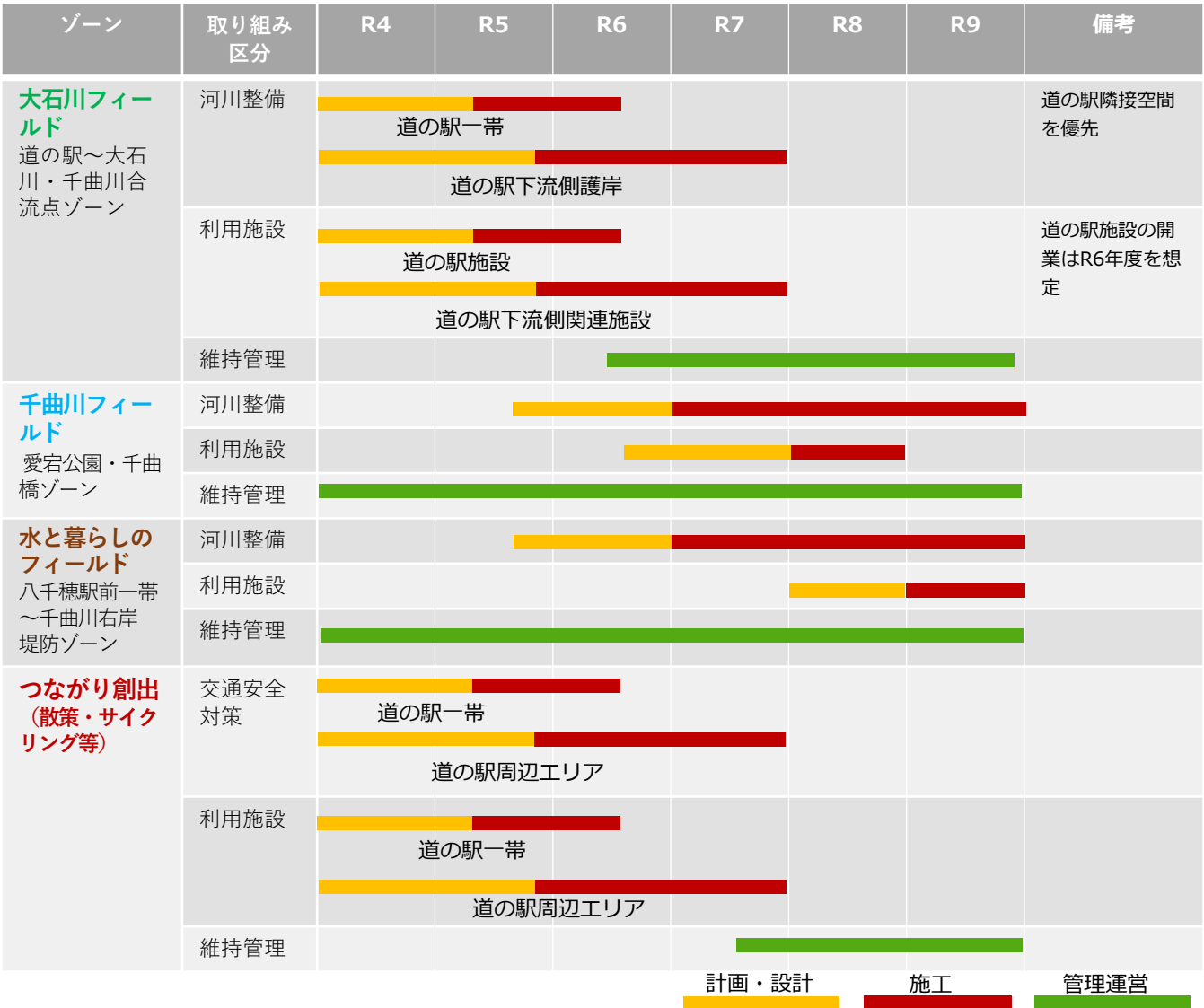
(仮称) 八千穂地区かわまちづくり作業部会
参加候補団体

所	属
佐久穂小中学校	
大日向小中学校	
むかしたんけん館友の会	
スポーツ推進委員会	
健康づくり関係団体	
環境保全活動関係団体	
まちづくり関係団体	
フューチャーデザイン研究会ワークショップ参加者	
かわまちづくり推進協議会委員	
佐久建設事務所	
町役場関係課（総合政策・建設・産業振興・生涯学習・こども課）	

4.3 取り組み実現の展開

本書で目指すかわまちづくりで当面優先されるのは、道の駅（R6年度開業を目標）を中心とする大石川沿いの整備や運営体制の構築です。

このゾーンを中心に展開するソフトの構築も並行で進めながら、段階的に千曲川沿い、八千穂駅一帯などへの施設整備やソフトの実践につながっていくスケジュールが想定されます。



なお、スケジュールは現段階での想定であるため、今後の社会情勢などの変化も見極めながら、協議会等を通じて調整を図りながら、確定させていくこととなります。